

## (長崎大学の感染症研究拠点の中核となる高度安全実験施設 (BSL-4) 施設の基本構想 平成29年9月長崎大学(抜粋))

施設において実質的・日常的な管理運営を行う責任者であり、施設における管理運営業務、研究・人材育成計画等の意思決定のほか、各部門の長など所内の教職員に対する指導・助言を行う。拠点長や副拠点長が、日本全体又は大学内外の調整に注力して拠点を支える中で、施設長は、特に、施設内部のマネジメントに注力する。

なお、施設が設置されるまでは、施設長は、「施設設置準備室長」という名称を用いる。

### ② 拠点における実施部門

施設における理念である、(i) 世界最高水準の安全性、(ii) 地域社会との共生、(iii) 研究・人材育成の成果創出に合わせ、施設における実施部門の基本的な組織としては、施設整備段階から、(i) 施設・安全管理部門、(ii) 地域連携部門、(iii) 研究部門・人材育成部門を置く。また、拠点全体の円滑な活動を支援する総務部門を置く。

#### 1) 施設・安全管理部門

施設・安全管理部門は、施設における安全管理に責任をもつ部門であり、施設の安全確保に関する業務全体を掌理・実行する。

施設・安全管理部門には、次の人員を配置する。

本部門の部門長は、本部門の教員とともに、拠点における安全管理の司令塔として、部門員を指揮して、計画的な安全対策を講じる。感染症法に定められ、安全管理の責任者である「病原体等取扱主任者」については、BSL-4 施設の安全性に対する最も高度な知識、経験、遵法意識が問われることから、施設・安全管理部門長又は施設長が務めることを検討する。

非常に特殊な建築物である BSL-4 施設の建物・設備について施工、維持管理等を監督する技術職員及び運転オペレーターを配置する。また、施設内外の巡視、施設への厳格な入退室管理、外部からの侵入者対策など、高度な安全性を保つために必要な警備・巡視を行う警備担当を置く。

さらに、特殊な動物実験施設である本施設において実験動物の飼育、動物実験の手技手法を専門とする人材を配置する。また、施設の現場の状況に即しながら、感染症法、組換え DNA 実験規制などに係る法令遵守の徹底を図るための人員を配置する。

## 2) 地域連携部門

本施設の運営のためには、地元自治体及び周辺住民との信頼関係の維持が不可欠であり、対外的な窓口となって要望、意識動向を的確に捉えることのできる専門家や、それを補佐する職員を配置する。施設の公開、見学者への対応、研究への理解促進イベントの開催のほか、施設における研究成果の紹介や、地元中高生などの科学的関心を育てる教育イベントも開く。

## 3) 研究部門

感染症の制御のためには、①疫学研究、②感染増殖機構研究、③感染病態研究、そして④医療応用研究の、4つの研究分野が必要であり、各分野に焦点を絞った研究を推進する。国内外の感染症研究の動向を踏まえて、自ら研究活動を実施して成果を創出しつつ、他の研究機関との共同研究の企画立案やコーディネートを行って、我が国の感染症研究を戦略的に先導する。また、施設内で用いるシステムには、最新の情報セキュリティ対策を施すことから、研究情報管理担当の教員も配置する。

## 4) 人材育成部門

研究部門のスタッフと連携しながら、①研究者、②施設運営スタッフの育成に取り組む。施設整備段階においては、研究部門のスタッフが人材育成を担当するが、施設設置の進展に合わせて、人材育成を本務とする本部門を設置する。

## 5) 総務部門

拠点長、副拠点長、施設長による拠点運営をサポートするとともに、文部科学省、厚生労働省など関係省庁や、長崎県、長崎市などとの連絡窓口となるほか、拠点の各部門の調整を図る。また、拠点内に係る総務、人事、会計などの事務を担当する。

## 6) 拠点組織に関する重要事項

### ① 危機対応チーム（仮称）

万が一、病原体等が BSL-4 施設外に漏出した、あるいは漏出する恐れが高い事態になった場合、感染症共同研究拠点において、あらかじめ指名され、その役割が明確化された構成員からなる「危機対応チーム（仮称）」が、事態の收拾のための対応を行う。